

災害時の医療救護体制の見直しについて

■ 事業の目的

✓ 医療資源の最適配置

病院と市の機能重複を解消し、限られた医療従事者を効果的に配分する。

✓ トリアージ機能の強化

病院近隣にトリアージポスト及び緑エリアを配置することで、黄エリア（中等症）以上の患者に対する病院の診療機能を確保する。

✓ 医療ニーズの変化への対応

避難所のみならず在宅避難者等の健康管理も行える体制を構築する。

■ 修正イメージ

【修正前】

名称	緊急医療救護所	避難所医療救護所	近隣病院
保谷第一小学校	○	○	保谷厚生病院
谷戸小学校	○	○	田無病院
田無小学校	○	○	佐々総合病院
田無第一中学校	○	○	西東京中央総合病院
田無第四中学校	○	○	武蔵野徳洲会病院
保谷中学校	○	○	

■ 事業の内容

✓ 設置場所の変更

緊急医療救護所は、市内の災害拠点病院、災害拠点連携病院の敷地内又は近接地を基本とする。

✓ 役割分担の整理

区分	緊急医療救護所	避難所医療救護所
市の役割	トリアージ、軽症者治療	被災者健康管理、巡回医療
開設期間	発災から72時間まで	発災72時間以降

✓ 災害関連死の防止

田無病院は要配慮者に対する支援に特化、山田病院は精神疾患の方を広域的に受け入れる予定であることから、緊急医療救護所としては指定をせず、災害関連死を防ぐ体制を構築する。

【修正案】

緊急医療救護所	避難所医療救護所
佐々総合病院	原則として500人以上の避難所又は福祉避難所に開設する。
西東京中央総合病院	
保谷厚生病院	
武蔵野徳洲会病院	

西東京市地域防災計画の読み替えについて

■ 防災気象情報の改善

✓ 新情報体系の導入

令和 8 年 5 月より、名称の統一、レベルを付与といった、新しい防災気象情報の運用が開始された。

例) 土砂災害警戒情報→レベル 4 土砂災害危険警報

✓ 新情報体系の概要

・直感的な名称への変更

様々な名称で設定されていた情報を、住民が直感的に避難行動を行えるよう、5 段階の警戒レベルに合わせた名称に統一的に変更した。

・「危険警報」の新設

警戒レベル 4 相当の情報として、新たに「危険警報」を新設した。

・レベル数字の明記

名称そのものにレベル数字を付けて、わかりやすく変更。

✓ 計画上の運用（読み替え）

西東京市地域防災計画上に記載されている気象情報については、これらの新名称に適宜読み替えて運用を行う。

▼ 新たな防災気象情報（西東京市例）

警戒レベル	防災気象情報(気象庁)			状況例
	河川氾濫	大雨	土砂災害	
警戒レベル 1	早期注意情報			5 ～ 2 日後を目安に台風が東京地方に影響する恐れがある。
警戒レベル 2	レベル 2 氾濫注意報	レベル 2 大雨注意報	レベル 2 土砂災害 注意報	3 ～ 1 日後を目安に台風が東京地方に影響する恐れがある。
警戒レベル 3	レベル 3 氾濫警報	レベル 3 大雨警報	レベル 3 土砂災害 警報	24 ～ 8 時間後を目安に台風が東京地方を直撃する恐れがある。
警戒レベル 4	レベル 4 氾濫危険 警報	レベル 4 大雨危険 警報	レベル 4 土砂災害 危険警報	12 ～ 3 時間後を目安に大型で非常に強い台風が東京地方を直撃する恐れがある。市内で道路冠水、浸水被害が発生。
警戒レベル 5	レベル 5 氾濫特別 警報	レベル 5 大雨特別 警報	レベル 5 土砂災害 特別警報	大型で非常に強い台風が東京地方を直撃。石神井川の氾濫、土砂災害の発生。

西東京市地域防災計画の読み替え及び修正スケジュールについて

■ 令和 7 年度組織改正

✓ 平時の部名・課名の変更

組織改正に伴い、現行の地域防災計画に記載されている平時の部署名等を変更。

✓ 「班」の役割

災害時における実動組織としての「班」については、随時適切な役割を検討しながら、必要な修正を行う。

✓ 計画上の運用（読み替え）

実動への影響を防ぐため、計画上の旧部署名については、新名称に読み替えて対応する。

✓ 主な変更例

・子育て支援部 → **子ども若者部** ・情報推進課 → **情報システム課** ・社会教育課 → **地域学習推進課**

■ 地域防災計画修正スケジュール

✓ 西東京市地域防災計画の修正

年明け 1 月～ 2 月頃に予定している第 2 回防災会議にて、最終修正案の提示と合意形成を予定。